

九 防 協 年 報 2 0 2 1

2 0 2 1 年 度 (第 5 1 年 次)



2 0 2 2 年 3 月

一般社団法人 九州病虫害防除推進協議会

序

一般社団法人九州病虫害防除推進協議会（九防協）は1970年（昭和45年）に創立され、2010年（平成22年）4月からの法人化を経て、今年度で創立51周年を迎えることになりましたが、福岡県では新型コロナウイルス感染症に対して2021年の年明けから今年度末まで、3回の「緊急事態宣言」と2回の「まん延防止等重点措置」が発出されたため、昨年度に引き続き、新年賀詞交歓会、創立記念講話会、技術研修会などが中止、運営委員会、評議会（旧運営会議）は書面会議に変更になるなど、九防協のほとんどすべての事業が中止、あるいは変則的な運営を強いられることになりました。このため、本来なら本年報に掲載されるはずの九防協創立記念講話会、果樹や茶樹技術研修会の報告等が欠けることになり、今年度の年報もかなり寂しい内容になってしまいました。

九防協の重要な事業の一つである「病虫害防除法改善連絡試験」の設計会議や成績検討会も新型コロナの影響で県関係の出席者が数名程度のこともあり、会議を開催したとしても十分な検討ができるのかが危惧されることも度々ありました。事前に主査と受・委託機関の関係者、九防協とでメールや電話で資料の検討を行い、会議に出席できない方には当日、リモートで参加していただくことで、試験成績書や主査設計書をまとめあげることができましたが、やはり一刻も早く関係者一同が対面で討議でき、終了後の懇談会で十分な情報交換ができる会議に戻ることを願わずにはられません。

上記の連絡試験の課題設定にも大いに関係する九州各県の病虫害の発生状況ですが、2021年度は昨年、一昨年のトビイロウンカのような「注意報」、「警報」級の多発生はなかったものの、気になる病虫害の発生がありました。サツマイモ基腐病とトマトキバガです。サツマイモ基腐病は2018年11月に沖縄県で本邦初発したあと12月に鹿児島県、翌2019年1月には宮崎県、2020年には福岡、熊本、長崎の3県でも確認されおり、2021年度には鹿児島、宮崎両県では注意報が発表されました。トマト、ナス、ピーマン、ジャガイモなどのナス科野菜を加害する

トマトキバガは2021年10月に熊本県で本邦初確認されたあと、今年度末までに佐賀県、長崎県を除く5県で発生が確認されています。この両病害虫が懸念されるのは、九州は全国有数のサツマイモやナス科野菜類の生産地であるため、発生が増加し、被害が拡大すると農家経営に極めて大きな悪影響を及ぼすと考えられ、すでにサツマイモでは基腐病による減収により、生食用の他、宮崎、鹿児島では芋焼酎の製造にも大きな影響がでているとのTV、新聞報道がありました。両病害虫の防除に効果が期待される新旧開発農薬があれば、九防協の連絡試験で是非検討すべきと考えています。

序を終えるに当たり、私こと、このたび九防協の規定により3月31日をもって退職することになりました。2011年（平成23年）4月の新規採用以来11年間もの長い間、ともかくも大過なく勤務することができたのは関係機関や会員の皆様のご支援、ご協力のおかげとあらためて心より感謝申し上げます。4月からは堤隆文代表理事（前常務理事）、山口純一郎常務理事（前佐賀県上場営農センター所長）、入江裕章、松永享子両事務局職員の新体制で九防協は新たな旅立ちを迎えます。九防協は引き続き九州の農産物の高品質・安定生産に寄与できる新たな病害虫防除の確立を目指していく所存ですので、関係機関や会員の皆様には今後とも倍旧のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2022年3月

一般社団法人 九州病害虫防除推進協議会

代表理事 山 中 正 博